

『私の夢はDリーガー』

必佐小学校 6年 西村 優彩

私の将来の夢は、Dリーガーになることです。私は5歳からダンスをやっています。今回、私が習っているダンススタジオが、全国一位を決めるコンテストに出場することになりました。スタジオから2チーム出られることになったので、オーディションをして出場メンバーを決めることになりました。私はどうしても、1番上のAチームに入りたかったので、がんばって練習しました。オーディションの日はとてもきんちょうしたけれど、自分の中でなっとくできるおどりができました。そして結果発表のとき、とてもドキドキしたけれど、Aチームで自分の名前が呼ばれてとてもうれしかったです。Aチームのメンバーは、高校生、中学生が多く、小学生は私と友だちの、みやびちゃんの2人だけでした。

本番までの4か月ほど、ダンスの先生のレッスンだけでは足りず、自分たちで集まって自主練習をすることになりました。ふだんはあまり話す機会のなかった年上のメンバーたちとも仲良くなって、どんどんチームのきずなが深まっていきました。

そして本番の日。会場に入るとスピーカーの数が16個もあって、今までにない大きな音におどろき、本番がとても楽しみになりました。私たちの出番になりました。Dリーグさながらのコールや登場の仕方にテンションが上がりました。私も自分の名前をコールされ、会場みんなの大きな声えんの中、舞台に上がりみんなでポーズを決めたとき、最高に気持ちがよくて、Dリーガーの人はいつもこんな気持ちでステージに立っているのかなと思いました。カウントダウンが始まって曲が流れ、おどっている時は自分がDリーガーになった気持ちになりました。賞は取れなかったけれど、大きな舞台で思いっきりおどれたことが気持ちよくて、また必ずあの舞台でおどりたいと強く思いました。会場ではDリーガーのトレーディングカードがもらえました。私の好きなDリーガーのカードはあたりませんでした。どの選手のカードもかっこよかったです。

将来はDリーガーになって、今コンテストチームでコンビを組んでいる、みやびちゃんと同じチームに入って活やくしたいです。そして私のダンスをみて、今の私のように「この人の様なDリーガーになりたい。」と思ってくれる子どもたちが、一人でも多く増えてくれたらうれしいなと思います。

夏にあったパリオリンピックではブレイクダンスが新競技に加わり、はじめての大会で日本人の女子選手が金メダルをとりました。私が大きくなる頃には、ヒップホップもオリンピックの競技に加わっていると夢も広がるし、世界で活やくできていいなと思います。

ダンスの楽しさは、世界共通です。言葉は通じなくても一緒におどれば、コミ

コミュニケーションも取れて心で通じ合えると思います。もっともっと世界中にダンスの楽しさや魅力が広がるといいなと思います。

将来、私がプロのDリーガーになって活やくするために、今、所属しているコンテストチームで賞をたくさん取ってもっともっと世界中にダンスの楽しさや魅力が広がるといいなと思います。知名度をあげていきたいです。また、いろいろなダンサーのワークショップを受けてスキルの幅を広げていき、今の自分にできることをコツコツと積み上げていきたいです。そして何よりも、大好きなダンスを楽しむ気持ちを、これからも持ち続けることを大切にしていきたいです。